

薬師寺東塔「縁の瓦」里帰りに関わる経過報告

平成21年より10年計画で薬師寺東塔大修理始まる。

上層の屋根を解体するために瓦を取り外し始めた。すると墨書きしたり、釘書きしたりした名前入りの瓦が発見された。はずし終わって調査・分類すると長野県下の学校の名前が瓦に釘書きしてある345枚が発見された。

※瓦総数約33,600枚 内平瓦は約17,000枚、この中で釘書き瓦は4,815枚、その中で学校名が釘書きされていた瓦345枚であり、全てが長野県の小中高等学校名であった。

平成25年5月28日

薬師寺より寄進銘瓦（縁の瓦）発見の知らせが届く。信濃教育会の寄進銘瓦も2枚見つかる。その裏面文面「本教育会の斡旋によって、長野県内の各学校有志がこの塔の修理に協力し、修補瓦を奉納したることを後世のため銘記す 昭和27年2月 信濃教育会」

平成25年10月4日

奈良・薬師寺東塔全面解体修理で発見された校名入り瓦に関する信濃教育会の記者会見を行う。（薬師寺「国宝東塔解体修理に伴う瓦の発表」記者会見 10月3日）

平成25年12月18日

「薬師寺東塔の「縁の瓦」に関するアンケート」を関係小・中・高等学校に実施する。各校からは「里帰り」の強い意向が寄せられる。

平成26年3月8日

信濃教育会第4回臨時総会において「薬師寺東塔の瓦に関する決議（案）」が全会一致で承認され、里帰りに向けた取組が始まる。

平成26年5月15日

雑誌「信濃教育」で薬師寺東塔「縁の瓦」に関する記事が特集され、その後抜き刷り本「薬師寺東塔の甍」を作成して全会員に配布する。

平成27年6月23日

第1回定時総会の開会前に、理事、常任委員、代議員に「縁の瓦」の理解を深めていただくために、薬師寺の僧侶から「縁の瓦」の話と「薬師寺食堂復興御用材の寄進」として「瓦筈」に話をする機会を提供する。

平成27年7月12日

信濃教育会賛助会員会総会で薬師寺管主松久保伽秀様による講演会「奈良薬師寺東塔瓦に届く歌声積もるご縁・・・信濃の国から」が開催される。

平成27年9月17日

第2回臨時総会で「薬師寺食堂復興屋根瓦の寄進の決議（案）」が全会一致で承認される。（鬼瓦一口（10万円）と平瓦1枚（2千円））

平成27年10月24日

信濃教育会より代表者が薬師寺を訪れ、食堂復興屋根瓦を寄進する。平瓦裏面に記銘する。文面『『夢』東塔の瓦に寄せた思いをつなぎ、長野県の児童 生徒 職員が瓦筈を基壇に埋納したことを銘記し、信濃教育会は鬼瓦を寄進する』

平成28年7月20日

薬師寺より「縁の瓦」の里帰りについて、奈良県教育委員会は好意的であり、里帰りの時期を早めることは可能であるとの連絡が入る。

平成28年10月18日

奈良県教育委員会薬師寺東塔修理出張所より、不採用瓦の信濃教育会への引渡しが可能となったこと、「縁の瓦」一覧表と裏面写真データの提供ができるという連絡をいただく。

平成29年2月11日

第4回臨時総会で里帰り瓦117枚の薬師寺から信濃教育会館までの運搬等に関わる費用の信濃教育会負担が承認される。

平成29年3月15日

薬師寺や奈良県教育委員会薬師寺出張所、運搬業者（山本瓦工業）を訪問し、「縁の瓦」の信濃教育会への運び入れについて打合せをする。

平成29年5月16日

薬師寺より里帰り瓦125枚が信濃教育会館に届く。

平成29年7月11日

薬師寺東塔「縁の瓦」里帰り式開催